

患者のためのセカンドオピニオン相談シート（記入例）

A：患者本人氏名		東大 花子
B：相談の目的 (あてはまるものすべてに○)		①. 外科的治療法と内科的治療法のどちらを選ぶかで迷っている ②. 現在の治療法以外の治療法がないか相談したい ③. 大きな手術などを受けるように勧められている ④. その他(下欄に記入)
		どの病院で治療を受けるかについても迷っている。 東大病院の治療実績を知りたい。
C：準備できる資料		①. 診療情報提供書(紹介状) 2. 血液検査記録 ③. 生理学検査の結果(心電図・呼吸機能・脳波など) 4. レントゲンフィルム ⑤. 超音波検査の結果と画像 ⑥. CT・MRI検査などのフィルム 7. 病理診断報告書 ⑧. その他(心筋シンチグラム、カテーテル検査)
D：現在の状況		入通院： 1. 入院中 ②. 通院中 治療： 1. 治療前 ②. 治療中 3. 経過観察中
これまで の 経過	E1:いつ、何と診断されたか	診断の時期 7年 ヶ月前ごろ 病名 狭心症 がんの場合 病期 病理診断名
	E2:これまでに受けた検査	心電図、ホルター心電図、心エコー、心筋シンチグラム、冠動脈CT、カテーテル検査
	E3:これまでに受けた治療(該当者のみ)	薬物治療(バイアスピリン、テノーミン、フランドルテープ、メバロチン)
F：主治医の意見 (特に主治医が勧める治療法とその理由について)		発作の回数が増え、薬がだんだん効かなくなっている。このままでは心筋梗塞を起こす危険があるので、ステント治療か、バイパス手術を受けたほうがよいが、血管が狭くなっている部分に石灰が沈着して硬くなっているため、ステントやカテーテル治療は適さない可能性がある。しかし、バイパス手術で症状が必ず改善するとも言えない。
G：質問したいこと (箇条書きで)		1. ステントで治療できる患者と、バイパス手術が必要になる患者をどう区別するのか。 2. 自分はそのどちらに適しているのか。 3. バイパス手術は手術中に死亡することがあると聞いた。そのリスクはどのくらいで、どんな人が死亡するのか。 4. バイパス手術をおこなっても、症状がよくならなかった場合、どうするのか。

患者のためのセカンドオピニオン相談シート 記入上の注意

B: 相談の目的

- * あてはまるものすべてに○をつけてください。
- * それ以外の目的は、下部の空欄にご記入ください。

C: 持参できる資料

- * 現在、おかかりになっている主治医に、どのような資料を貸し出してもらえるかを相談してみましょう。
- * あてはまるものすべてに○をつけてください。
- * その資料の分類（画像診断・生化学・病理検査など）がわかりにくい場合は、「その他」の欄にお書きください。

D: 現在の状況

- * 治療：まだ検査結果が出たばかりで、治療を始めていない方⇒治療前
お薬を飲んでいるなど、なんからの治療を受けている方⇒治療中
経過を観察している⇒経過観察中

E1: いつ、何と診断されたか

- * 病名や病期：現在の病名、病期をお書きください。

E2: これまでに受けた検査

- * 治療期間が長期におよぶ方は、今の主治医のもとで最近受けた検査についてお書きください。

E3: これまでに受けた治療

- * 薬物治療については、現在お使いになっている薬の名前をお書きください（過去に服用した薬は除く）

F: 主治医の意見

- * 主治医が勧める治療法とその理由を中心にお書きください。
- * 主治医に記入してもらう必要はありません。 主治医に説明されたことを、あなた自身の言葉でお書きください。

G: 質問したいこと

- * あなたが最も聞きたいことから順番にお書きください。
- * 相談日までに、別の質問や新たな疑問がでてきた場合は、ご遠慮なくお尋ねください。
その場合も、メモに箇条書きにしていただけると、スムーズに相談が行えます。

<相談シートを送付する前に>

- * 記入した書類は、コピーをとって、手元に残しておきましょう。
- * 相談日までに追加・修正があれば、記入して、相談日当日にもっていきましょう。